

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	安芸高田市立吉田小学校	校長氏名	平川 博秀	生徒指導主事氏名	本田 光洋
-----	-------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『吉田小学校フェスティバル～夏～』

取組のねらい『キーワード：6年生の活躍，異年齢交流』

自治的な活動を仕組んでいくことで6年生児童の活躍の場を設け，自己有用感・自己肯定感を高める。また，縦割り班活動で異年齢交流を行い，望ましい人間関係を深める。

取組の具体的内容『キーワード：6年生，縦割り班』

遠足，運動会の取組の中で協力してくれた1～5年生に，6年生が感謝の気持ちを表す会を開く。17の遊びのブースを6年生が企画・準備・運営する。そのブースを，1～5年生が縦割り班で回って，レクリエーションを楽しむ。



アルミ缶積み



聖徳太子ゲーム



なかみ当て



豆つかみ



魚釣り



パットゴルフ

取組の課題・創意工夫『キーワード：共通理解，時間，空間』

6年生に新たな目標となる活動を設定し，歓迎遠足や運動会の中で身に付けた力を発揮させることで，児童の中に主体的に学校をよりよくしていこうという動きをつくっていくことをねらった。工夫としては，児童が主体となる動きになるように，事前に児童会・学年会などで会の目的や意義について共通理解を図った。課題としては，1学期末に行ったため，準備の時間が十分取れなかった。しかし，時間がないゆえに休憩時間，放課後などを利用して自主的に児童が活動する姿が見られた。また，遊びの空間として各教室をブースにしたため，事前の準備や，事後の片づけの時間も十分とれなかった。児童会を中心に提案していきながら，縦割り班活動が継続的な取組となるように，時間を確保していく必要がある。

取組の成果（効果）『キーワード：感謝（ありがとう）』

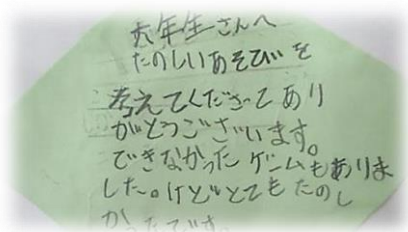


6年生の自己有用感・自己肯定感を高めるねらいで，「ありがとうの木」の取組とつなげていった。ありがとうの気持ちを葉っぱに書いて掲示していく取組であるため，各学年のありがとうの気持ちが形になり，6年生に「やってよかった。」という思いを実感させることができた。

また，各縦割り班に担当の教員がついており，当日，担当の班と供にブースを回り，6年生の活躍にふれることができたため，各教員が6年生を評価することができた。これにより，6年生と各職員との関係がより近くなった。

また，活動を通して，6年生の中に自信が生まれ，「学校をよりよくしていこう」「新しい取組に挑戦していこう」という意欲が高まった。

さらに、6年生はブースを複数で担当していたので、この活動を通して、6年生児童の中の望ましい人間関係が深まった。また、縦割り班で楽しいゲームに取り組んだことで、1～5年生の間の望ましい人間関係も深まった。



【ありがとうの木の葉】

<児童の感想から（4年生）>

6年生のみなさんが、ゲームのお店をひらいてくれて、吉小フェスティバルをしました。私が一番心にのこったのは、「中身あてゲーム」と「ビンゴゲーム」です。6年生は、1年生から5年生ができるゲームをたくさん考えていて、「6年生の人はそこまで考えているのだな。」と思ったし、「今日はとっても楽しい一日だったな。」と思いました。

6年生がわたしたちのために、吉小フェスティバルをひらいてくれました。わたしたちによろこんでもらいたいという思いで、今日まで休み時間やほうか後に、じゅんぴをいっぱいしてくれたことが、6年生のえがおからわかりました。わたしは、とてもうれしくてたまりませんでした。6年生にはかんしゃしています。

1学期は、運動会、入学式、まだまだいっぱいとてもすてきなことがありました。わたしだけではなく、みんなもそうだと思います。1学期は、ありがとうございましたとみんなに言いたいです。

今後の活動『キーワード：新しい伝統』

学校行事は、教師側が意図的、計画的に実施していくが、これに児童の発意・発想を効果的に取り入れていくことにより、児童の自主性を育むことができると考える。そうしてできたことを、新しい伝統として残し、つないでいくようにすることが大切だと考える。この活動も、第2回吉田小フェスティバル、そして5年生が中心となる「6年生を送る会」へとつないでいく予定である。行事をすること自体が伝統ではなく、児童の発意・発想を効果的に取り入れることを伝統としてつないでいき、児童が主体的に学校をよりよくしていこうという意欲を高めていきたい。



【昨年度6年生を送る会】

他校へのアドバイス『キーワード：自治的な活動』

生徒指導のねらいである「自己指導能力の育成」は、実践的な集団活動を通して体験的に学ぶことが必要とされている。つまり、望ましい集団活動を通して、自主的、実践的な態度を育成することや、自己の生き方についての考えや自覚を深め、自己を生かす能力を養うことを主たる目標とする特別活動は、生徒指導の中核的な役割を果たす。学級会や代表委員会などの自治的な活動のシステムを構築し、話し合いによる自治的な活動を地道に続けていくことが、児童の中の主体的に学校をよりよくしていこうという意欲を高める効果的な生徒指導であった。まわり道のように感じるかもしれないが、「困っていることは話し合いで解決する」「よりよい学校・学級になるように話し合う」ということが学校文化として定着していけば、より効果的な生徒指導の取組が行えると考えられる。